



初めてでも安心！
里の駅★能美産直市場へ行ってみよう！

◀仕切り棚にあるグレーの料金筒に、おつりが出ないように購入金額分を入れます。もしピッタリのお金がなくても、その日の当番の方に両替してもらえます。



◀複数の生産者さんが同じ品種を作っていることも。みかんなどの柑橘類は、見て比べて……と、選択の幅が広がります。

お手頃価格の多肉植物も人気。まるでポットに並んだ小宇宙です▶



インスタ映え必至の、大きさも形も全てが規格外のダイコン。行くたびに発見があって、買うだけでなく来るだけでも楽しめます。▶



◀農作物だけではなく、地元の食材を使った加工品なども取り扱い。写真のイチヂクジャムのほか、江田島市が誇る、天日干し乾麺や醤油などの特産品がここで買えます。



▲とにかく安くて新鮮。あれもこれもと目移りするラインナップです。

▼建物外にある花のポット苗は、90歳を超えた生産者の方によるものです。まさに生涯現役ですね！



キクイモやバターナッツカボチャなど、一般的な食料品売り場には見かけないような作物もたくさん。商品やその近くには簡単な調理法も書いてありますが、せっかく来たら当番の方に聞いてみましょう！皆さん親切に教えてください。▶

ETAJIMA GoON! Vol.35

里の駅 能美産直市場（能美町）
会長
こにし ひろき
小西 博基さん

【施設紹介】60歳を過ぎた頃「地元に貢献したい」思いから、能美町に無かった産直市場の開設に取り組む。竹やぶを切り開き、廃屋を再利用して2016年にオープン。小規模生産者を中心に、地元の新鮮な野菜や花き、果物、調味料や乾麺など特産品を揃える。市内外から年間約4万人が訪れる、江田島市を代表する人気スポット。

能美町出身の小西さん。長年暮らす地域に貢献したい思いから里の駅能美産直市場を開設。沖美町のウエストバザール（当時、大柿町のふれあいプラザ）さくらの先例を見て、能美町にも産直市を、と考えたのが構想の原点。土日に100軒近く回り、公民館で説明会を開き、同志を募った。

価格高騰の昨今、春菊や小カブなど100円前後の作物に驚かされる。スーパーなどの商品より少し見劣りする理由もあるが、気軽に買いにきてもらえる価格を目標とする。



▲写真右から小西さん、空本さん、下田さん。小西さんの思いに共感し、歩んできたお二人ならではの、多面的なお話を伺えました

施設 所能美町中町 4579-3 営 9時～13時（売り切れ時点で終了） 休 年中無休（年末年始を除く）
情報 ☎(0823)69-9333



儲けよりも 喜んでいただける販売所 あること



▲無農薬ダイコンもものすけカブも新鮮で珍しい作物にファンも多い

間と始めた。知人から譲り受けた廃屋を解体後、現地から運び出し、約一週間で組み立てた。会員制の産直市で、店番や両替は当番で行う。キクイモのような珍しい野菜も並び、調理法が分からないお客さんには当番の人が応じる。「自ら店番をする手作り感にリピーターが親しみを持ってくれる」と小西さん。

はなく、皆の声を活かして横の繋がりも大切にする市場だ。取材日に同席くださった下田さんと空本さんは、共に市場を支えてきた同志。小さいお子さん連れのお客さんや、野菜の調理の説明から、話に花が咲くムードメーカーの空本さん。「お客さんが喜んでくれる、温もりのある販売所が小西さんが目指すもの」と下田さんは語る。

家におったら寂しいけれど、と憩いの場に訪れる常連客も少なくない。「ここが元気の源じゃないかと思う」と小西さん。地域にも元気の出る、楽しい場所。儲けるというより喜んでもらえること。商品を通して温かい繋がりを育んできた能美産直市場は、今年で8年目を迎える。

公式 HP

